

ノリ陸上養殖施設着工

理研食品が 脇之沢漁港に 10月の生産開始目指す

陸前高田



海藻関連製品の製造一品(株)本社・宮城県多賀郡陸前高田市米崎町などを手掛ける理研食品(賀城市渡辺博信社長)でスジアオノリの陸上

養殖事業に乗り出す。19日、現地得起工式があり、関係者が工事の安全を祈願。10月から生産、11月の出荷開始を目指している。

起工式には関係者ら約20人が出席し、玉串奉てんやくわ入れなどが行われた。戸羽太市長は「水産業は貝毒やサケの不漁など厳しい状況にあり、生産者の所得向上に向けた新し

いチャレンジが必要。陸上養殖の取り組みは、地域に大きな勇気を与える。早く成果が見たい」と期待した。施設は脇之沢漁港に位置し、事業面積は約8300平方メートル。1期、2期工事に分け、9月末までの1期工事では、直径8メートル、高さ0.8メートルの養殖用水槽25基と鉄骨造平屋の管理棟1棟(床面積324平方メートル)を整備する。水槽には井戸からくみ上げた海水を流し、生育を促す。



スジアオノリを養殖する直径8メートルの水槽(写真①)、工事の安全を願うくわ入れを行う渡辺社長(写真②)

令和5年を予定する2期工事では、水槽の数を倍の50基に拡大する計画。総事業費は約2億7000万円。当面は、従業員8人態勢で事業を展開する。管理棟では、種苗の生産や収穫後のノリ乾燥を行う。生産量は乾燥品で年間5トを見込み、2期工事終了後、同10トを目指す。

陸上養殖は、海況に左右されずに生産でき、海上と違って安定した平地で作業できるのがメリット。スジアオノリは、香りの強さと色の良さで高級品として取引されるが、国内生産量が減少しており、同社は5年前から、高知大学との共同で、陸上養殖の事業化に向けた研究を続けてきた。

海水の取水が可能な

週間天気予報



広い事業用地を探していた中、陸前高田市や広田湾漁協の協力で同市への進出が決まった。市内で陸上養殖を行うのは2社目。

渡辺社長は「ワカメ以外の原料生産は、会社にとっても多角化への初めての挑戦。復旧ではなく本場の復興に向けて事業に取り組ん

6月にセレブレーション

東京五輪 聖火リレー

観覧者を募集中

陸前高田で

東京2020オリンピック・パラリンピック聖火事業等岩手県実行委員会は、6月17日(木)午後5時50分から陸前高田市高田町の

アバッセたかた駐車場が開かれる東京2020オリンピック聖火リレー「セレブレーション」の観覧者を募集している。締め切りは同

6日(日)。オリンピックの聖火リレーは同16日(水)18日(金)の3日間、気仙沼市を含む県内27市町村で実施。リレー